

夏季研修会に参加して

今年度の夏休みも、多数の先生方が研修会、講習会等に
参加されました。その中から得られました貴重な体験や
感想をお寄せいただきました。

技術家庭科同好会 夏休みの実技研修

古田のり

技術家庭科同好会では、この夏休みにはパソコンの勉強とバックの製作をしました。

七月二十七日には宮下斐夫先生にお世話いただいて、新築の須坂商業高等学校、簿記実習室をお借りして、野球部顧問もされていてお忙しいところを同校の柳沢成宣先生と講師に男女とも次のような研修をさせていただきました。

パソコン利用の初歩技術
パソコン利用の文書作成
パソコンによる栄養診断
パソコン用ソフトの作成
なお最先端をいくすばらしい機器設備の数々も見学させていただきました。

私などはこのような会には男の先生と同じグループへ入っていたら見て学ぶことになりがちでしたが、この会に参加された女の先生方は女のグループで自らパソコンを操作し活発に質問などしながら前向きに研修をされました。男の先生方も勿論快調にキイをたいておいでになりました。

講師の先生のきめこまかなご指導のおかげで暑さも忘れ一同熱中して学ばせていただきました。

昨年度に続いてパソコンの学習は四回目、機器には弱い

からなどためらわずに先ず手をふれてみる。こうしたことを積み重ねることの大切さを痛感しました。

さきごろ出された中教審の中間のまとめによりますと技術家庭科に「情報基礎」領域の新設が記されています。

今後情報化社会に生きる子どもたちのために教師自身もコンピュータを扱う技術者身につけるよう努力していきたいものです。

この会ではすでに昨年度から食物領域でのソフト作りがいそいそとあります。やがてこれらを使つての実証授業へまで進みたいと思います。

八月三日には男は更にパソコンの勉強、女は小池昭子先生からキルティング地を使つてのバック製作を学びました。全員バックを作り上げ見せ合

信教夏季基礎講座(音楽)を ふりかえつて

内山 満

かんかん照りの暑い日だった。日滝小学校の会場に汗を

ふきながら楽器を抱えた先生、大きな包みをぶら下げた先生



いました。中には夏休み中にいくつも作り親しい方々へプレゼントされ喜んでいただいた方もあったようです。

好みに合った材料を選んで自分の手で工夫しながら縫い上げる楽しさを十分味わわせていただきました。

クラブの子どもたちにも作れそうな簡単なバックです。で、そのうちに学校でも作つてみたいと思います。

他の研修会などかち合ったりして、受講できないう方もあり惜しかったですが、集まってみなさんはクーラーのきいた教室で家庭のこと学校のこと等語り合いながら相互の触れ合いもでき心なごんだ研修会となりました。(栗ヶ丘小)

たちが集まってくる。どの先生も希望に燃えて足どりも軽い。お互いにもう顔見知りで、「やあ元気かい。」などの声が

知らせておこう。



かわされている。昇降口のところに設けられた受付がしばらくの間、黒山の人であらざる。受付がすむと体育館へ向かう。間もなく開会式が始まるのだ。

こうして「信教夏季基礎講座(音楽)」が三日間開かれることになったのである。昨年の会場が南安地区で、池田先

期日 8月1・2・3日
会場 須崎市立日滝小学校
宿舎 須坂温泉 古城荘
講師 声楽 伊藤 温先生
ギター 斎藤 勇先生
リコーダー 上杉紅重先生

なお、相森中学校の市村先生が声楽のピアノ伴奏者として素晴らしい講師補佐を示しておられました。

受講料2万円(昼食代・おやつ代・宿泊懇親会費等まで含まれています。)

受講の状況を細かにお知らせするスペースがありませんので、各講座別の受講者の感想を主に記してみましよう。

○声楽班
・独唱がとて良く刺激になった。

・動唱の核心にふれた先生のお話が、とてもよく解った。

○ギター班
・初心者にも初歩の初歩から教えていただき、基礎がしっかりできた。

・今年には少人数なのでいいに指導して頂けてよかった。

○リコーダー班
・大変ていねいに指導して頂き、有意義な講習が受けられた。

・講師の方々のじきじきの演奏がうれしくて、それだけでも大変価値があった。
大抵の雰囲気はお解りになられた事と思います。三日間会場をお借りした日滝小学校と滝沢先生、それから裏方をとめて下さった先生方本当にご苦労さまでした。(高山中)

美術夏季絵画講習会

滝沢 祥 匡

「一つの色が変れば三つの色が動きます。今回はこのことを頭において追求してみてください。……」これが今年の福井先生のはじめのお話でした。「講習会というものは、作品を作り上げる場ではなく、新しい実験をし、自分の表現の幅を広げる機会です。思いきってやってみてください。」ともいわれます。

色のひびきあい。理屈はわかりません。また、先生に「この部分に白が欲しいです。」といわれ、実際に試してみても、なるほどと思いません。しかし自分で発見して見ないのがなんと、もはやゆけなくもなりません。福井敬一先生を講師に仰いで、三十二年という長い伝統ある夏期絵画講習会が、今年も盛会のうちに終了しました。一口に三十二年といいますが、こんなに長い間お一人の先生のご指導が続いている会はほまれだと思います。私たちが会員として

でも大変な誇りに思っています。先輩の先生方が真摯な気持ちで研鑽に励み、大きな意義と喜びを感じてこられた結果であろうと思われまします。

それにもまして何よりも福井先生のお人柄と、絵画芸術に対する深い見識と、ご自分の制作態度から滲み出る具体的な「一般論でない」指導が、この今の新鮮さを保ち続けてきたものと思えます。

毎年先生は、ご自身の制作の中でとらえられた課題を同好会員のレベルにあつたものにして携えてくださいます。

講習会の場だけでなく、もう一つの楽しみは、各自が作品を携えて先生の宿へおじゃまし、批評していただく時です。アルコールを少々入れているものになります。「ただ物を空いているところにうめただけで、空間ができていない。」

「こういうのは色が寝ている」といふ。等々です。この会がこうして、私たちの次の制作への大事な起爆剤にもなっています。

全てを忘れ、一事に打ち込むことのできるこのような気分を残してくれました。(須坂小)



この半年を振りかえって

曾禰原 久美

豊丘小学校に来て、もう半年が過ぎようとしています。私は三月まで北安曇の小学校にいて、四月から新規採用になり豊丘小にお世話になって

います。豊丘小は一学級増えたので、私は机もロッカーも新品を頂きました。給食着から事務用品まで全て新しく、私も受け持った一年生と同様ピカピカの一年生として、気持ちも新たにスタートしました。

念願の職に就く事が出来、二十一名のかわいい子ども達に囲まれ「さあ、やるぞ。」と希望に燃えて出発したわけですが、時がたつにつれ、楽しいけれど根気のいる仕事である事がよくわかりました。

上級生を見習ってか一年生は挨拶が上手で礼儀正しく、話を聞く態度も立派である。というのが、初めの印象でした。しかし、おとなしかったのは暫くの間で、学校生活に慣れてくると本領を発揮しだし、あつちを向いたりこつちを向いたり大騒ぎです。ついつい我慢しきれず大きな声を出してしまします。初めの頃はびっくりして効果があつたのですが、最近はどう効き目がなくなってきました。一年生を受け持って、苦労だけではありません。日本語の難しさを痛感しました。先日、算数でたしざんの練習をしました。ある子が、「先生、こたえ書くの。」と聞くので、「そうですよ。」と答えました。少したつてからノートを見ると、「10+3=13(ひん)ひん」と書いてあります。「あのね、答えは書くけど、こたえって書かなくていいんだよ。」と言うと、不思議そうな顔つきをしていました。

「先生、いつ図書館借りのの。」
「先生、あのね。……あれ、わすれちゃった。忙しくても顔を見て話を最後まで聞こうと思うのですが、なかなか時

学校づくり ⑬

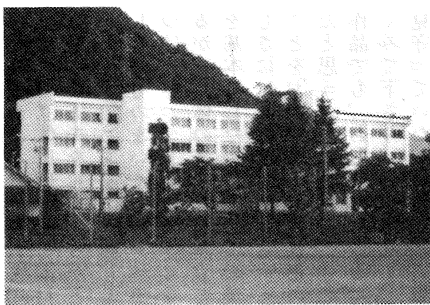
新生常盤中学校

久遠の理想をめざして

昨年来、校舎全面改築が行われていた本校は、七月末に一期工事が竣工し、入校式が挙行された。普通教室、一部特別教室四階建ての白亜の堂々たる近代的な校舎である。

木材を多くとり入れた内部は、温かな落ち着いた雰囲気を感じさせ、生徒はこの恵まれた教室で、感謝しつつ熱心に学んでいる。管理棟・体育館と工事は進められ、二年後にはま

たたく一新した姿の学舎となる。創立以来の旧校舎は、既に撤去され、あの懐かしい木造校舎や本校の誇りであった庭園のたたくまいは、今はない。しかし、先輩が築き上げてくれた輝かしい伝統は創立来四十年脈々と受け継がれ、育てられている。それは「切磋琢磨」の精神であり、気品のある常盤中学校を創りあげること



ある。旧校舎との別れの日でも、感謝を持って床を磨きあげ、明るく挨拶をかわす生徒の姿は、その具現である。そんな生徒達にもっとたく

間がかかりました。初めての土地で寂しいとも思わず、充実した毎日を通してこれたのは、この元気で無邪気な子ども達のおかげです。それに、住宅の鳥の巣をとってくださったりやさしくしてくださる父兄の方々、毎日暖かく見守り御指導くださる先生方に心より感謝します。(豊丘小)



ましさをという願いは「不壊魂」という新たな目標となつた。陸上部の全国大会・郡陸での活躍、吹奏楽部の県大会で優秀な成績を残すなどその成果が実を結びつつある。校友会を中心として、全校あげて学芸を中心とする発表の場として作りあげられる「常盤祭」は、特色ある行事である。本年度のテーマは「伝統と創造、いま新たな礎を」とであり、生徒の意気込みが感じられる。「久遠の理想」は校歌の一節、新しい器にふさわしい新生常盤中をめざし確かな歩みを続けている。(市村 聡)

火はほち



くものくじら

堀内 さとみ

石井鶴三先生の思い出

北島 英 巳

青い空にぽっかり浮かんだ白い雲。私はこんな空を見る度に、あの白い雲を大きな袋につめ込んで、その袋で気球を作りたいな、そしてその気球に乗って、あちらこちら眺めてみたいな、と幼い頃からずっと考えていました。

国語教材（光村出版）で、「くじらぐも」を初めて読んだ時、私の幼い頃からの夢が甦ったようでした。国語だけに留めておくのはおしい、いつか子ども達に聞かせ、どの子にも自分の絵の中で、くものくじらに乗ってほしいと思いました。

今年三年生の担任になり、理科で「雲の動き」の学習をしました。子ども達は空を眺めているうちに、「あの雲、象みたいだね。」「あの雲は広くて、波みたいだね。あの中で泳いでみたいなあ。」という声が続いてきました。また中庭の草取りをしています。

「先生、ジャングルジムに登ってもいい？」
「一番上は、高くて気持ちがいいよ。遠くまで見えるね。」と、久しぶりのジャングルジムに満足したようでした。
このようなことがあり、「くじらぐも」を子ども達にぶつけてみました。
「四時間のことです。校庭で体操をしていると、空にくじらが現れました。雲のくじらです。」
私の身ぶり手ぶりに驚いたのか、目を大きく開き、こちらの語りを聞いていました。
でき上がった絵は、中心になるものが不明瞭だったり、構図がよくない、着色に工夫が少ないうえ、着彩に工夫が足りないなど欠点は多くあります。しかしどの子も自分の絵の中で楽しむことができたように思います。そして私自身、幼い頃からの夢に一步近づけ、空に向かってジャンプできました。

(豊洲小)

私は、昭和三十一年から三十七年まで、田原幸三先生に勧められて、塑像づくりの講習会に出席したことがある。夏休み中、上田南小学校（現在のの上田二中の敷地）の裁縫室に遠方よりの受講生が、合宿して十二日間集中して、上田松尾高校（現上田高校）の美術室四室を使って立体造形の基礎的講習が行われた。その時の講師先生が当時芸大教授でおられた石井鶴三先生である。石井先生は、受講生と共にいつも自分でも、油土をつかって、鋭く対象をとらえたりと、した作品を作っておられた。師と受講生はいつも共に学び合う関係になければならないとおっしゃっていた。私のような初心者、夢中になって粘土をにぎり、モデリングしていくのであるが、対象の美がみれどもみえずで、余計なところに粘土がついて、一方からみればまあまあだが、他方からみればだめで苦慮していた。宗教でいえば、「一方を証するときには一方はくらし」でなかなか総合的な全体としてのものにならないのが実情であった。そんな折に、私の背後で、上品でどっしりとした、威厳のある先生が、眼鏡のおくに鋭く、きびしく、きらきら輝いてい

る眼が私の作品をみておられるのである。ハッと私は、気づいて恥ずかしく思った。しばらくしたら又おみえになって、今度は、少し遠くの方から、私のつたない作品をみておられる。そのうちに近くにおいでになって、一言こうおっしゃった。「君ね、そんなに安易に粘土を置くものではないよ。そう言われて他の部屋へ行かれた。この言葉は、当時は、何の事かよくわからなかったが、今にして思うと、対象を見ているのか。対象から感受した美的立体感動を、

ビールのCMちかごろ

本田 浩 一

(日滝小)

テレビのCMは、お盆を過ぎるところから秋物に変化する。特に衣類のCMは、秋を通りこして冬になってしまった感さえある。ペールギントの一曲を口ずさみながら登場する女性は、すでに革製の手袋をつけている。
ちよつと気のきいたCMは、秋らしく、シックなものにかわっている。
そんな中であって、例年、やけに場気な夏を、いつまでも引きずっていたのが、ビール

こうしたCMは、この会社の製品に限らず、各ビール会社のCMで新しい傾向として登場してきている。
こうした傾向は何を意味しているのか、暑いからビールを飲むというだけの構造に変化が生じているのだと思う。人々が、ビールそのものを愛するようになってきている。自分のライフスタイルの中で、自分にあつたビールを飲むようになってきている。だから夏向きのCMでなくてもよいのだと思う。そういえば、ビール界を席巻したライトビール戦争は、すっかり消え去ってしまった。より本物へ、より自分の口にあつたビールを求めて、人々は動きはじめている。この意識の変化がCMへと反映する。50%のビールが登場し、麦芽だけからできたビールが生まれた。ブランドだけでは満足できない時代が、やってきた。
九月にはいつて、秋らしくなる日も多くなる。そんな時、アルコール分80%の黒ビールの小ビンや、グラスを使わずに飲んだりすれば、自分が、クリント・イーストウッドに見えてくる。(小布施中)

編集後記

暑い夏休みが終わり二学期が始まりました。今回は、この休みの間、暑さにも負けず研鑽を積まれた先生方から寄せられた研修会の様子を中心にお届けします。

(羽田・神林)